

3 生産性向上の条件整備と国民の支援

(1) 生産性向上に必要な条件整備

本節では、林業の生産性の向上の取組を進める上で必要となる施業の集約化や人材の育成等について記述する^{*22}。

(集約化施業の加速化)

我が国の森林の保有形態は、保有山林面積が小さい森林所有者が多数を占める構造となっており、個々の森林所有者が効率的な施業を単独で実施することは困難である。

このため、意欲と能力のある林業経営体・林業事業体が、複数の所有者の森林を取りまとめ、施業を一括して効率的に実施する施業の集約化が重要である。特に、林業の採算性の悪化により森林所有者の施業意欲が低下していることから、森林所有者からの施業依頼を待つのではなく、森林組合等の林業事業体から森林所有者に対して森林の現況や施業の内容・収支等を提示し、間伐等の施業の実施の働きかけを行う提案型集約化施業を普及・定着する必要がある。また、この際には、施業の集約化や施業の実施の前提となる所有者の特定や境界の明確化、森林現況等の情報を整備するための取組を進めることが重要である。

(人材の育成)

林業の生産性向上に当たっては、高性能林業機械を活用した作業システムの導入・運用、これに必要なとなる路網のルート設定や開設、小規模森林所有者の森林を取りまとめる施業の集約化等を進めていくことが必要となるが、このためには、専門的かつ高度な知識・技術を備えた人材の育成が重要となる。

森林・林業に係る人材育成については、既に、「緑の雇用」を通じた研修、森林技術総合研修所における研修、森林施業プランナー育成研修等による人材の育成を実施しているところである。

林野庁においては、今後、「日本型フォレスター」をはじめとする技術者や路網作設オペレータのような技能者の戦略的・体系的な育成方法等についての指針となる人材育成マスタープランを作成し、森林

のもつ多面的機能の持続的発揮や効率的な林業経営の推進に必要な技術及び知識を持った人材の育成に取り組むこととしている。

(林業事業体の育成)

造林・保育や素材生産は、森林組合や素材生産業者等の林業事業体によって主に実施されている。このうち、伐採・搬出を担う素材生産業者の多くは小規模であり、生産性が低位な水準にとどまっている。このようなことから、高性能林業機械の導入や人材の確保・育成を進めるとともに、法人化など安定的な経営を確立していくことが重要である。

(木材の安定供給と利用拡大)

林業は、森林から木材等の林産物を生産する産業である。このため、伐採・植栽・保育等という林業のサイクルを円滑に循環させていくためには、生産された木材の需要が確保され、適切に利用されることが必要である。実際、本章の冒頭で取り上げた欧州諸国においては、年間の丸太消費量が100万m³を超える製材工場等、大規模・効率的な木材産業が発達しており、これらが、効率的に生産された丸太の受皿となっていることが林業の基礎となっているところである。

我が国の木材の流通・加工をみれば、小規模・分散的な構造が特徴となっており、需要者ニーズにこたえた製品を安定的に供給する体制の整備が遅れている。

このため、木材の供給側である林業においては、本章で述べた取組を通じて山元からの原木を安定的に供給できる体制を整備するとともに、その受け手である木材産業においては、製材工場等の大規模化や水平連携の促進による国産材の流通・加工の効率化を進める必要がある。また、住宅や公共施設における木材利用、石炭火力発電所等における木質バイオマスの混焼、新たな資材等の研究・開発等を推進し、木材需要の拡大を図っていくことも重要である。

(2) 森林のもつ多面的機能の持続的発揮に向けて

林業については、木材の安定供給、地球温暖化対策の推進、雇用の確保等の諸課題への対応が求められる中、その再生を図っていくことが重要となって

*22 施業の集約化、人材の育成、林業事業体の育成については第IV章に、木材の安定供給と利用拡大については第V章に、それぞれ詳述した。



いる。

本章では、造林・保育から素材生産に至る各段階での林業の生産性の向上に向けた取組や、これらの取組を進める際に必要となる施業の集約化や人材育成等について記述した。森林所有者をはじめとする林業関係者全体によってこれらの取組が着実に進められるとともに、森林資源を活用した新たなビジネスの創出が図られ、林業の採算性の向上が図られることを通じ、林業が再生していくことが期待される。

この際には、目先の生産性の向上等にとらわれて森林の持続性が損なわれるようなことがあってはならない。また、森林のもつ多面的機能の持続的発揮は林業の再生のみで実現されるものではなく、林業以外の観点も含めた幅広い観点から森林の管理を検討することが必要である。

森林の恩恵が国民全体に関わるものであることを踏まえれば、森林に対する様々な関心・利害を調整しつつ、国民全体のものともいえる森林をどのような姿にしていくのか、どのように利用・保全していくのかなどについて幅広い観点から合意を形成し、林業の再生と森林のもつ多面的機能の持続的な発揮を確実なものとしていくことが求められる。

コラム 主な高性能林業機械

ハーベスタ(伐倒造材機)



伐倒・枝払・玉切・集積を一貫して行う自走式機械

プロセッサ(造材機)



枝払・玉切・集積を行う自走式機械

スイングヤーダ(簡易架線集材機)



アームをタワーとして使用し、主索を用いない簡易な架線による集材機

タワーヤーダ
(タワー付き集材機)



簡便に架線集材できる支柱を装備した集材機

フォワーダ(積載集材車両)



玉切した材をグラップルローダで荷台に積んで運ぶ自走式機械

グラップル



丸太を掴んで荷役を行う自走式機械

ロングリーチグラップル



木寄せ用にロングリーチのブームアームを装着したグラップル

- グラップル付きバケット／土砂掘削用バケットに材を掴むグラップル機能を併せ持たせた作業機
- フェラーバンチャ(伐倒機)／立木を伐倒し、集材に便利な場所に集積する自走式機械
- スキッド(トラクタ、牽引式集材機)／丸太の一端を吊り上げて土場まで地曳集材する自走式機械